

(株)ネクスコ東日本イノベーション&コミュニケーションズ の設立について

- ネクスコ東日本は、先般1月29日に開催された取締役会において、3月3日に新たな子会社を設立することを決議しました。
- この子会社は、先進企業や大学などと連携して、SMH・ICT関連技術の技術開発を行う仕組み、いわば**新たな技術開発プラットフォーム**となるものです。
- **先端技術開発を促進し、いち早く業務に反映していくほか、その成果の外部活用を図ることで、主に公共インフラ分野等でも貢献することを目的**とします。

<子会社の概要>

- 商号) 株式会社ネクスコ東日本イノベーション&コミュニケーションズ
- 所在地) 東京都港区東新橋二丁目3番17号 MOMENTO SHIODOME
- 事業概要)
 - ・ 先進企業等とのアライアンスによるSMH・ICT関連技術の開発
 - ・ 自社の技術レベルの向上、高度化に資する技術開発成果の内部活用
 - ・ 技術開発成果の他企業等への提供

※SMH・ICT関連技術の例

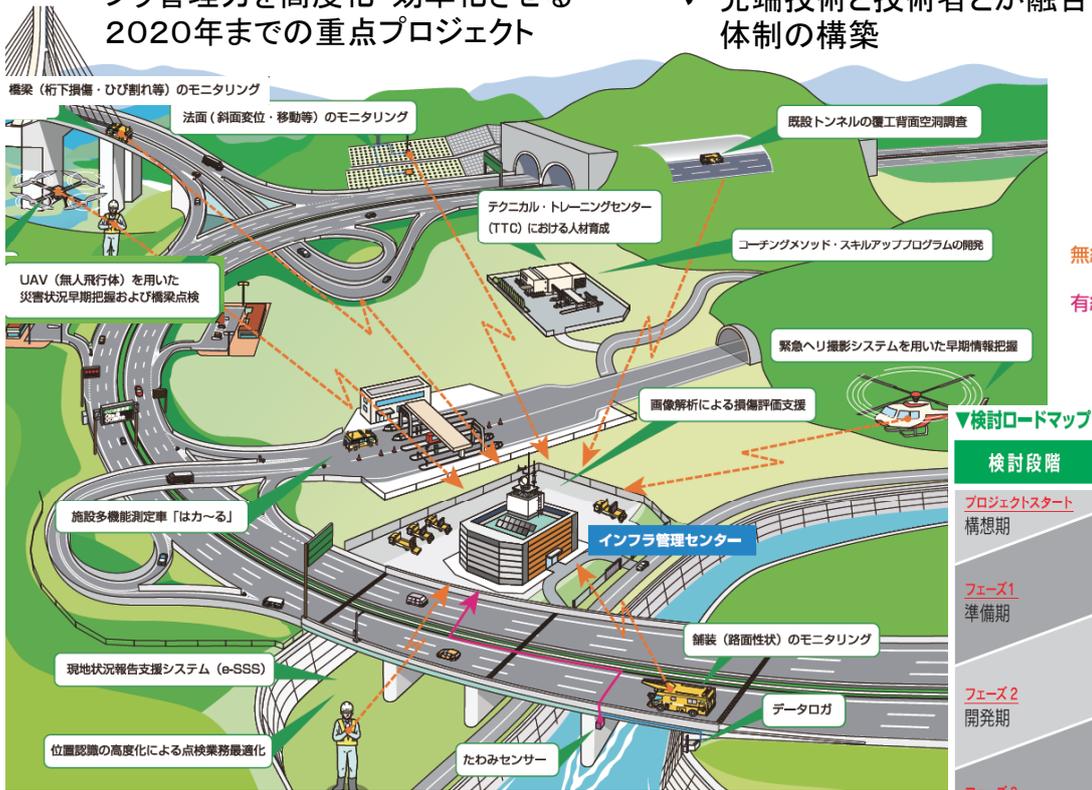
- SMH関連技術: UAV(無人飛行体)等の災害対応やインフラ点検への活用
- ICT関連技術: webやモバイル端末向けアプリ等による高速道路の情報提供ツールの高度化
- 資本金等) 資本金85百万円、資本準備金85百万円
出資比率 東日本高速道路100%
- 設立予定日) 平成27年3月3日(火) ※会社の登記申請予定日
- 事業開始予定日) 平成27年4月1日(水)

新会社の主な事業内容例①

《SMH関連先端技術開発関係の例》

SMH構想とは？

- 長期的な高速道路の「安全・安心」の確保に向け当社グループ全体のインフラ管理力を高度化・効率化させる2020年までの重点プロジェクト
- ✓ 現場の諸課題の解決に立脚、密着した検討の推進
- ✓ ICTや機械化等、先端技術の積極的な導入
- ✓ 先端技術と技術者とが融合した総合的なメンテナンス体制の構築



▼検討ロードマップ

検討段階	年度	検討内容
プロジェクトスタート 構想期	2013	SMH 構想公表
フェーズ1 準備期	2014-2015	SMH 基本計画、プロジェクト計画公表 SMH 全体のアーキテクチャ作成 技術開発・研究の目標設定、着手 ※先行技術はモデル現場での試行開始 PDCA 業務サイクルの確立
フェーズ2 開発期	2016-2017	技術開発の促進、現場試行の拡大 システム再開発、データ整備 (RIMS) インフラ管理センターの一部試行 インフラ管理業務要領書の整備
フェーズ3 検証期	2018-2019	PDCA サイクルの機能検証・改善 組織・要員・業務の最適化検証
プロジェクトゴール 展開期	2020~	SMH 全社全面展開・発展

◆UAV(無人飛行体)等を活用した災害情報把握・点検技術の開発

災害対応

次世代インフラ用ロボット実証実験
(国土交通省主催)



災害調査部門検証現場
(奈良県赤谷地区)



エリオン社 UAV

インフラ点検



スイス連邦工科大学
ジンボル



新会社の主な事業内容例②

《ICT関連先端技術開発関係の例》

お客様への情報発信への取り組み

全国高速道路情報提供サービス『ドラぷら』のアプリ版『ドラぷらアプリ』において、今後、休憩施設（SA・PA）の情報や“注意して走行すべき箇所”の情報などをプッシュ配信する機能を開発し、お客様サービスの向上やビジネス機会の創出を目指す。

Webを活用した情報提供



携帯端末を活用した情報提供



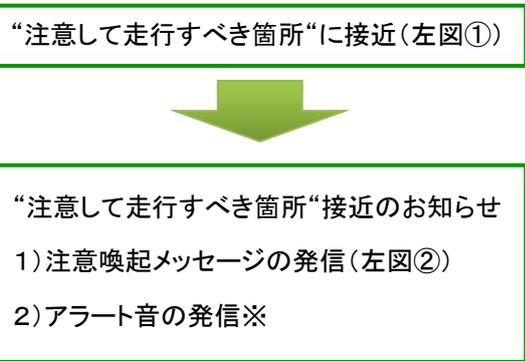
◆”注意して走行すべき箇所”の通知イメージ



注意して走行すべき箇所

画面イメージ(Android版)

② 注意喚起メッセージ



※マナーモードの場合はアラート音が聞こえませんのでご注意ください。